

AMUSEMENT SQUARE stage

プロジェクト・ノーウェンバー「秋のソナタ」の公演に参加した。長谷川孝治主宰による弘前劇場のメンバーが中心となって、県内の役者を集めての、プロジェクト第三弾の作品であった。

昨年、盛岡、仙台、山形等からの役者を集めての公演であったが、今年は、青森、十和田、むつ等でのワークショップを兼ねたオーディションで選ばれた役者として、弘前劇場の役者との共同作業での公演が行われた。

県南地方からは、十和田の、植田祐介、中島みちる、そして八戸からは、私、田中勉が参加し、十月十四日(水)の浪岡公演を初日として、仙台、東京、弘前での公演が、計十回行われた。昨年のプロジェクトでは、八戸公演もあったのであるが、今年行われず、県内では、浪岡、弘前公演のみであったのは残念であった。

芝居の内容を簡単にいうと、紅葉を迎えた湖畔にあるホテルの中で、結婚式を明日に控えた養蜂家の一家と、それに係わる友達等を中心としながら、ホテルの従業員、愛人関係の不動産ブローカー、三角関係の元夫婦とその愛人、合宿に

来ている大学生達の話が、ホテルのロビーで展開される。題名通り、それぞれの話が、ある場所で展開される、「秋のソナタ」であった。

一時間三十分程の舞台は、特に大きな事件が起きることもなく、それぞれの役者が持っている方言

を使いながら、脚本家であり演出家である、長谷川孝治特有の人間関係を織りなし、淡々と進んでいく。一見、日常生活の一片を切り取り、舞台上上げたただけのように見えるが、福士賢治を始めとした役者達は、発せられる台詞だけにとまらず、厚みのある舞台を展開し、あつという間に時間は過ぎて行く。正に「長谷川ワールド」であろう。

弘前劇場の様な舞台を始めとして、「静かな演劇」とは誰が言ったのかは分からないが、実はそこで行われている作業は、「静」とはともいえない作業が行われていると実感した。

また、このプロジェクト・ノーウェンバーは、青森県芸術文化振興事業としての位置づけもあり、県の補助を受けての公演でもあった。行政が芸術文化に目を向け、支援していくという姿勢に入ってきたことは非常に有意義なことであり、画期的なことであるが、芸術文化と行政が、どう共存し、どう展開していくかが、今後の課題となつて来るものと思われる。

ともあれ、プロデューサーの存在の大切さを認識し、その人材が少ない中で、浪岡での初日から、各地での公演が満席であったことから、弘前劇場の作業の質の高さが窺える。

先月号のこの頁でも紹介したが、来年二月の東京アゴラ劇場で

開催される「大世紀末演劇祭」に参加する、長尾広海脚本、平霞健

悦演出、出演・佐々木真理子、山田景子、田中勉ほかで構成する、テアトロ「be」の作品「パズル」タダシサの限界」も、このプロジェクトの一環として行われる。

十一月十三日に、佐々木真理子出演による「抜け殻の残る部屋」パズルNo.1」を始めとして、十一月二十日の、長尾広海、山田景子による「パズルNo.2」、それに引き続き、十二月四日には、第三編が行われる。

この全編を通しての作品は、一月九日(土)の夜七時半からと、十日(日)の昼三時から二回、青森演劇鑑賞会の稽古場で公演し、また、一月二十二日(金)の夜八時からと二十三日(土)の夜七時半からと二十四日(日)の昼二時からと夜七時半からの四回の上演も予定している。

先に行われた、「秋のソナタ」の公演に劣らない、質の高い舞台にしたいものである。

● この間の東京公演で、先日スペースベンでの公演「竹久夢路」の日常」を終えた、三浦哲郎氏

と、大門賢二氏等に会うことができた。

青山田形劇場での初日が終わった後、三浦哲郎氏とホテル前で待ち合わせ(と言っても、道に迷う等のトラブルは多少あったが)、渋谷の、とある居酒屋で飲むことができ、更に、十日市秀悦氏に会うこともできた。十日市氏と三浦氏は、八戸弁での芝居を、つい最近、下北沢のスズナリで公演を終えたばかりである。二人とも、東京ですつと頑張っている役者さんであり、流石に熱い。この熱さは、何時までも持ち続けていて欲しい熱さである。

二日目は、同じく「夢路」の舞台で一緒だった、大門賢二氏等が舞台を観にきてくれ、その後また、話をする機会に恵まれた。大門氏は八戸出身ではないが、木村勝一氏主宰の「クレイジーJAP」のメンバーであり、これもまた東京で活躍している役者さんである。

それぞれ、役者として目指すべき方向、手法、姿勢が違いながらも、こうして、芝居についての話ができたのは、非常に有意義な時間であった。それぞれの、これらの活躍を期待する。

演劇空間スペースベン

プロジェクト・ノーウェンバー 「秋のソナタ」に参加して

〈文〉スペースベン代表・田中勉

*午後7時30分～ 料金¥500
間 スペースベン
八戸市柏崎1-11-8 ☎FAX 43-9876

12月の Friday Amusement Negative Shop

番組変更の場合もありますので、内容についてはデーリー東北の「あすのメモ」「きょうのメモ」欄でご確認下さい。

■4日 第252回(芝居)

「パズルNo.3」

●脚本:長尾広海 ●演出:平霞健悦
●出演:佐々木真理子、山田景子 他

※東京公演の一部、第三編。
この日の開演は、午後8時となります。

■11日 第253回(ライブ)

「曾我ニューバンドライブ」

●構成・出演:Mr.曾我
※あの曾我氏が新しいバンドを結成してのライブ。

■18日 第254回(芝居)

「タイトル未定」

●構成:小笠原由希子
※北生による公演。

■25日 第255回(ライブ)

「畔柳昌平ライブ」

●構成:畔柳昌平
※八高生の3人編成のバンドライブ。
なお、ライブ終了後、勝手に忘年会あり。
一同日「勝手に忘年会」